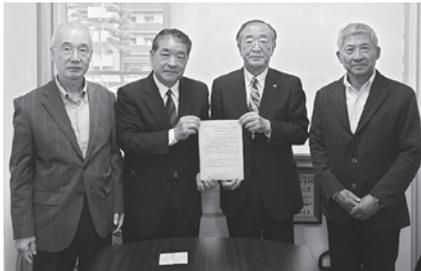


# 全国協議会 ニュース

2024年12月1日発行 第388号

発行所：特定非営利活動法人  
全国骨髓バンク推進連絡協議会  
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階  
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365  
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和  
https://www.marrow.or.jp E-Mail:office@marrow.or.jp

## えっ!! 福島県たったの5社とは... 「ドナー休暇導入」全県民運動のはじまり



経営者協会小野会長(中央右)に要望書を渡す  
関根会長(中央左)

1993年に一般社団法人東白川青年会議所の理事長を拝命し、会津美里町の大石邦子さんとの出会いから、「骨髓バンク」を初めて聞かされました。大石さんは「貴方達のような若い力が骨髓バンクには必要なの」と福島県南支部設立を依頼されたのです。若かった私達は二つ返事で「よし、やるべ!!」と即決しました。早速、大石邦子さんと大谷貴子さんを講師に招き「骨髓バンクを知る集い」を開催し、約300名の来場者を迎え、多くの若者

有志によって県南支部がスタートしたのが30年前のことです。

支部内各市町村において長年啓蒙活動を通してドナー拡大を推進してまいりましたが、2019年度には県南地域13市町村に「ドナー助成制度」を制定していただきました。さらに今年度は福島県35市町村長に助成制度制定の要望書を提出させていただいたところであり、今年度中に福島県59市町村100%制定を目指しています。

また県内の企業の中で「骨髓ドナー休暇の導入」がわずか5社しかない現状を鑑み、経済団体である県経営者協会(小野利廣会長は前県骨髓バンク推進連絡協議会長)、JA福島5連、県商工会議所、県商工会連合会の各代表者に直接お会いし「ドナー休暇制度導入」の要望書を提出させていただいたところでした。

福島県骨髓バンク推進連絡協議会

は、元患者家族をはじめ、現職の県会議員、市町村長、市町村議員、JA組合長、商工会長、さらにその家族が運営委員として、懸命なる諸活動に汗を流しています。活動に大切なのは「ボランティアは楽しくなければ続かない!!」ということと「担い手育成」であります。そして時には酒を交わしながら、骨髓バンクを酒の肴に交流することも必要です。

「若い世代のドナーの拡大」「骨髓ドナー助成制度確立」そして「ドナー休暇の導入」は「命のバトンリレー」を次世代に繋ぐために私たちに課せられた永遠の課題であります。

そして今この時間でも多くの患者さんやその家族が「藁にもすがる思い」で、提供者を今か今かと待ち望んでいるのです。一人でも多くの大事な命を救うために「優しく支えあう社会づくり」への支援の輪の拡大を強く願うものであります。

(福島県骨髓バンク推進連絡協議会  
会長 関根政雄)

### 日本赤十字社 全国骨髓ドナー登録担当者研修会

10月31日(木)～11月1日(金)、日本赤十字社別館会議室において令和6年度第2回日本赤十字社 全国骨髓ドナー登録担当者研修会が開催されました。この研修会は各都道府県の血液センター骨髓ドナー登録担当者の方を対象に年2回開催され、年度の1回目は基礎研修、2回目は運用改善のグループワークを行っています。

初日には3本の講演がありました。細川渚さんが20歳で骨髓提供した経験について講演。在籍している大学にはドナー公欠制度が無かったため10人の先生に直談判するなどして提供へ、提供後には大学職員に若年層ドナー登録、提供時の公欠の必要性など

を説明し、公欠が認められるようになったと語られました。

田中浩章さんは4歳で再生不良性貧血を発症した息子さんのコロナ禍での看護、骨髓バンクの課題などについて講演。コロナ禍によるストレスのもと闘病する息子さんに24時間寄り添う親の大変さについてと、この経験から、付添家族の環境整備や、患児の自己肯定感を高め社会とのつながりを感じてもらうために描いた絵をグッズ化するなどの活動について語られました。

名古屋市の担当者からは、登録の状況や若年層にむけての啓発について説明。ドナー登録推進に当たっては地元ボランティア団体の協力が有効との

お話もありました。その他、血液事業本部から「造血幹細胞事業への取り組み」などについての説明がありました。

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

### 骨髓バンク NOW

《MONTHLY JMDP(11月15日発行)より抜粋》

■日本骨髓バンクの現状(2024年10月末現在)

	9月	10月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,828	4,878	561,673	981,952
患者登録者数	190	219	1,699	69,983
採取数	骨髓	56	66	26,760
	末梢血幹細胞	30	31	2,332
	合計	86	97	29,092

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■10月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/1,577人、献血併行型集団登録会/3,148人、  
集団登録会/61人、その他/92人

■10月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,902人/20代 96,388人/30代 137,198人  
40代 212,153人/50代 111,032人

■10月の20歳未満の登録者668人

注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

## いのちの輝き展を終えて



11月2日(土)～9日(土)まで行なった、つなげよういのち「骨髄バンクいのちの輝き展」IN イオンモール石巻。

今回は、「あやちゃんの贈り物」「患者さんとドナーさんのメッセージ」「骨髄バンク関連のパネル」を展示。ご自由にお持ちくださいのコーナーには、さつと&はるちゃんのコラボポストカード(大好評)、リーフレット、チャンス他を並べスタート。

初日のセレモニーでは、渡邊伸彦石巻副市長をはじめ多くの来賓の方々にご出席いただき、全国協議会からは梅田正造理事長に応援のご挨拶をいただ

きました。次に石巻地域で調整医師としてお世話になっている、ししど内科クリニック院長戸友明先生の「骨髄移植はなぜ必要なの？」ミニ講演会。骨髄移植について骨髄バンクについてとてもわかりやすくお話ししていただきました。ご参加の皆様から「わかりやすく骨髄バンクの必要性もよくわかりました」というお声もいただきました。そして皆さんお楽しみの気仙沼市の熊谷育美さん、蔵王町の幹mikiさんの応援ライブ戸とても素敵な歌声で、ライブの中でも骨髄バンク、輝き展のPRもしていただきました。最後は私の無茶ぶりでお二人と会場の皆様といっしょに「上を向いて歩こう」を楽しく歌っていただきました。

私たちは、1992年「一人でも多くの患者さんにドナーさんが見つかりますように」を胸に石巻で活動を始めて32年。本当に多くの皆様にご支援をいただいて来ました。特にイオンモ

ル石巻さんが開店(2007年)されてからは定期的に骨髄バンク活動に協力していただき「骨髄バンクいのちの輝き展」は年に約2回ペースで開催させていただいています。東日本大震災の時も「大変な時だからこそ頑張ろう」と後押しをしていただきました。コロナで2年半くらい輝き展を出来ない時もありましたが昨年からは復活。イオン石巻さんからは「今後も患者さんが元気になるよう骨髄バンク推進活動に協力していくので、いろいろ相談してください」とのことで本当に心強いです。

8日間開催された「骨髄バンクいのちの輝き展」は多くの方々にご覧いただきました。骨髄バンクについての質問や励ましの言葉などもいただき、このような活動が登録に結びついていくのではないかと、あらためて感じています。ご多忙の中ご参加いただいた理事長、全国協議会のご協力応援に感謝しています。ありがとうございました。

(石巻骨髄バンクの会 代表 小野喜代人)

## やまがた社会貢献基金協働助成事業

～あなたの想いが命をつなぐ～「いち逢い」でドナー倍増プロジェクト!

骨髄バンクを支援するやまがたの会主催、山形県と全国協議会の共催のもと、10月19日(土)文翔館、11月17日(日)伝国の杜の2回にわたり開催しました。

始まりは2024年1月26日(金)の赤十字関係者の集い「もっとクロス!やまがた」に参加したことです。山形県知事吉村美栄子氏に挨拶した際、やまがた社会貢献基金なる助成金があることを知り、どうすれば広く若年層に訴え、ドナー登録者数を増やすことができるのか、そこから事業がスタートしました。

昨年2月に全国公開された映画「いちばん逢いたいひと(いち逢い)」のプロデューサー堀ともこ氏が、当会に入会してくださったこともあり、映画上映と、元患者と骨髄提供者のトークセッション、全国協議会公式アンバサダー山本雅也さんのミニコンサートを企画しました。なにもしなければ現登録者が年齢を理由に登録抹消され、10

年後には22万人が減ってしまいます。

試行錯誤して自前で作ったチラシ3,500枚とポスター600枚を、山形市と米沢市を中心に、全域の高校、専門学校、看護学校などに配布。山形県医師会と看護協会の協力も得ましたが、蓋を開けてみれば満席にはほど遠く、高校生達からの申込みは皆無で、とても落ち込みました。

文翔館のイベントが終わり数日過ぎたころ、当会に問合せメールが届きました。高校のSDG's探求学習で3人のグループが骨髄バンクについて調べているとのこと。連絡をくれた彼のお父さんがドナーに選ばれ骨髄提供をするので、関心を持ってくれました。早速、当会小野寺南波子会長とともに高校生とお会いし、質疑応答の時間はあっという間。最後の「高校生が骨髄バンクを広めることでどんな効果が期待できますか?」は特にうれしい質問でした。伝国の杜に誘ったら快諾してくれ、さらにクラスメイトを誘い、5



人が参加してくれました。朝から会場入りし準備を手伝い、映画を最前列で鑑賞し、トークセッションを聴き、ミニコンサートを手拍子しながら楽しんでいました。帰りは私の車に5人全員乗り、車中は山本雅也さんの曲を歌いながら帰路に着きました。

広報は思うようにいかず、申し込みされた方全員からの来場はいただけず、実行委員会メンバーが会議に集まらず、もっと意見を出し合って、準備できたはずと後悔しています。ボランティア団体がイベントを企画運営するハードルの高さを思い知らされましたが、高校生が関心を持ち、参加してくれたこと、来場してくれた友人が、「登録しにいুকよ」と言ってくれたことが、今回の全ての苦労を洗い流してくれました。

(骨髄バンクを支援するやまがたの会 草刈めぐみ)

## 北海道ブロックセミナー開催報告

11月2日(土)、TKPガーデンシティ札幌駅前(札幌市)において北海道骨髓バンク推進協会加盟ボランティア12団体のうち6団体と関係機関が集まり、5年振りに対面による北海道ブロックセミナーが開催されました。

セミナー前半は、「骨髓バンク公開セミナー」として札幌北榆病院の山崎奈美恵造血細胞移植コーディネーターから「希望をつなぐ骨髓バンク～移植患者さんと日々接して見えてくること～」と題して講演をしていただきました。公開セミナーには参加ボランティアの他に報道や一般市民など合わせて約30名の方々が聴講されました。

山崎さんからは、血液がんの種類やその治療方法、造血幹細胞移植の種類、提供ドナーとなった場合の入院から提供までの流れなどについて初めて聞く方にもわかりやすい内容でお話ししていただきました。また、コーディネーターとして提供ドナーと接することから、ドナーさんが仕事を休むこと

への苦悩、その苦悩を乗り越えて骨髓を提供して患者さんからの手紙を受け取りとても喜んで話なども聞くことができました。

最後に山崎さんからは「白血病は誰にでも起こりえる病気、死と直面する病気に患者さんや家族はとてつもなく不安になる。移植・ドナーが必要となるとさらに不安な日々を過ごすことになる。バンクのドナーさんは患者さんにとって生きる希望の光。その光の輝きが続くように、みなさまと協力して患者さんや家族の支援を行っていきたい」と話されました。貴重なお話と共に私たちの活動に励みとなるお言葉でした。山崎さんありがとうございました。

セミナー後半は、参加ボランティア団体、北海道保健福祉部、札幌市保健福祉局、日赤北海道ブロック血液センター、北海道新聞社など関係機関が集まりこれまでの取り組みについて報告を行い、全国協議会からも各地の状況や患者支援基金、「白血病と言われた



ら」の改訂等を報告しました。

続いて、若年層へのドナー登録推進について意見交換を行い、多くの登録会を実施している苫小牧骨髓バンク推進会から取り組みの紹介がありました。また、ドナー休暇制度や助成制度について、各ボランティア団体が所在する自治体での取り組み状況などについて情報を共有しました。

ブロックセミナーは5年振りに対面で行われたこともあり、懐かしい方々とお会いしお話しすることができました。今回は新たに登別骨髓バンク推進会の参加もあり、これからも多くの方が参加し北海道でのボランティア活動が活発になることを願います。

(北海道ブロック担当理事 齊藤千秋)

## 東京雪祭SNOW BANK PAY IT FORWARD 2024開催

11月9日(土)・10日(日)の2日間、東京雪祭(主催:一般社団法人SNOWBANK 代表 荒井善正氏)が東京・代々木公園で開催されました。献血者数463人、ドナー登録者数100人と多くの協力をいただきました。



今年2月にBMT神奈川のドナー説明員講習会に参加し、説明員となった鈴木秀樹と申します。今回初めて東京雪祭2024の初日に参加し、とても疲れましたが有意義で楽しい1日でした。

午前は啓発ブースで活動しました。初めは足手纏いにならない様にと気を張っていましたが、ミニゲームやグッズ販売など文化祭の様な雰囲気でお昼休みを取るのもったいないくらい楽しい時間でした。

午後は説明員として、ドナー登録ブースで活動しました。次々と説明を

希望される方がいらっしゃるので短時間で要領良く説明し連携しなければならぬので、とても鍛えられたと思います。今回献血された方は皆さん意識が高く、説明希望の方や既に登録済の方も多かったです。ただ説明不要の方の中には「まだ自分の中でドナーのリスクについて消化しきれていないため」という方も何人かいたので、その辺はこれからの啓発活動の課題なのかなと思いました。

スノーボーダーやグラビアアイドルなど普段の生活では接点のない方々とも交流できたので、刺激的な1日でもありました。新人の方、オススメです。(神奈川骨髓移植を考える会 鈴木秀樹)

「楽しいから始まる社会貢献」を掲げる東京雪祭。9日(土)は爽やかな秋

晴れに恵まれ、日中は雪が解けそうなほどの日差しと人々の熱気を感じました。

他のブースや競技をチェックしながら「献血・ドナー登録もよろしくお願ひします!」とティッシュを配布。家族連れやスノーボーダーの方々も皆喜んで受け取ってくださり、「ドナー登録したっすよ!」と声をかけてくれる方もいて、イベント全体に優しい空気が流れていることを実感。

協議会では、日本らしいお祭りイベント「くじ釣り」や「おめん」などを販売。イマドキの子どもたちも目を輝かせて楽しんでいる様子に、思わず笑顔になります。今は献血できないけれど、大きくなった時に骨髓バンクを思い出して賛同してくれる子がひとりでも増えることを願いつつ取り組みました。献血や骨髓ドナー登録といったイベントの目的を知らずに来た方も、まさに楽しんで、気軽に社会貢献もしようかな? という気持ちが生まれる場面に立ち会うことができた、充実の1日でした。

(事務局 小林敦子)



青森

### 県民公開講座 骨髄移植を知らう

10月27日(日) SG GROUP ホールはちのへ(八戸市)に於いて青森県立中央病院、各製薬会社の共催で第30回県民公開講座が開催されました。当日は約120名の参加者があり、講座や4つの分科会による疾患情報提供会

東京

### 秋の恒例コンサート 「響」開催しました!



が企画されました。

講座の内容は次のとおりです。①青森県のドナー登録これまでの歩み②青森中央学院大学献血サークルによる「学生ボランティアドナー登録説明員の継承」③ドナーさん体験談④患者さん体験談⑤青森山田中学高等学校吹奏学部による「いのちのコンサート」

参加者は50代が多く、今回初めての参加という方も大勢いらっしゃいました。終了後のアンケート結果も好評でした。次回の第31回は五所川原市で令和7年7月に開催予定です。今回



は全国協議会からの応援もいただきました。ありがとうございました。

(青森県骨髄バンク推進協議会 根井力夫)

初めてチャリティーコンサートを開催してから31年間、東日本大震災とコロナ拡大で2回だけは途切れましたが、この間継続して、三戸素子さん、小澤洋介さんの演奏は続いています。近年はピアノの高田匡隆さんが固定メンバーとなり、求道会館という歴史的な木造建築の特別な響きの中、目の前で素晴らしいピアノ三重奏を楽しめます。コロナ拡大が下火になった2年前には求道会館の1階席のみの使用許可で、2年前、昨年と60名上限の開催

でしたが、今年から2階席も使用可能となり、久しぶりに大々的に事前宣伝を行いました。晩秋の11月17日(日)、寒さも気にせず開演の30分前から続々と参加者が入場し、客入りを心配していたのが杞憂に終わり、104名の聴衆に素晴らしい演奏を届けることができました。来年は来場者150名目指して、東京の会は活動を続けます。

(骨髄バンクを支援する東京の会 若木換)

### 基金給付を受けた方からの メッセージ

#### 志村大輔基金(分子標的薬支援)

はじめまして。私は東北地方在住で二人の息子を持つ母子家庭の50歳です。去年の12月、急な体調不良で、病院へ行ったところフィラデルフィア急性リンパ性白血病と診断され、その日から抗ガン剤治療が始まりました。長男は成人して働いていますが、次男がちょうど中学卒業、入試、入学の年でした。ずっと一人で休むことなく頑張ってきたこの病気はとてもショックで、そして生活の面でも大変苦しい状態でした。

病院のソーシャルワーカーさんから志村大輔基金のお話があり、このたび支援をいただけることとなりました。ありがたくて涙が止まりません。

私には80歳になる母親もいます。私が入院している間、80歳になる母が次男の弁当や世話等頑張ってくれています。自分自身は長男も大学に

行ったので次男のためにもあと20年は頑張っておくつもりでいたのですが、ニックになりました。生活も病院代、家にある家族の生活費、学校、定期等、入院していてもお金が心配で頭から離れることはありません。助けていただき本当にありがとうございます。感謝しております。

検査結果次第では移植となりますが本当はとても怖いです。母より先に逝く訳にはいかない、せめて次男が成人するまでは生きたい、常に頭に置いて治療を頑張っているところです。このたびは本当にありがとうございます。助けてくれて本当にありがとうございます。(東北地方在住の患者さん)

### 心からのご寄付に感謝申し上げます ● 10月21日～11月20日(敬称略)

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般	株式会社 マルト商事	現金 56,845円	取コース)第22期7階フロア
藤波 敬子 現金 10,000円	株式会社 ナルックス	現金 35,602円	現金 10,000円
豊田 さやか 現金 5,000円	株式会社 フクヤ	現金 270円	社会医療法人 札幌北楡病院
匿名 現金 100,000円	株式会社 北越ケース	現金 268,901円	現金 16,303円
匿名 現金 1,000円	医療法人公仁会 姫路中央病院	現金 11,000円	スノーバンク募金箱
●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金	有限会社 さかえ薬局	現金 6,506円	現金 31,216円
NPO 法人骨髄バンク長野ひまわり	PARK ☆ LIFE	現金 2,000円	青森県民公開講座募金箱
の会 現金 10,000円	自治大学校税務専門課程(税務・徴		現金 4,800円
本田 真奈美 現金 5,000円			●つながる募金
●志村大輔患者支援基金			現金 15,300円
●清水 明子 現金 10,000円			●キモチと。
●募金箱			現金 3,317円
株式会社 クスリのアオキ			●マンスリーサポート
現金 1,312,640円			現金 23,000円

### 活動資金の支援を お願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754  
普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会  
郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。